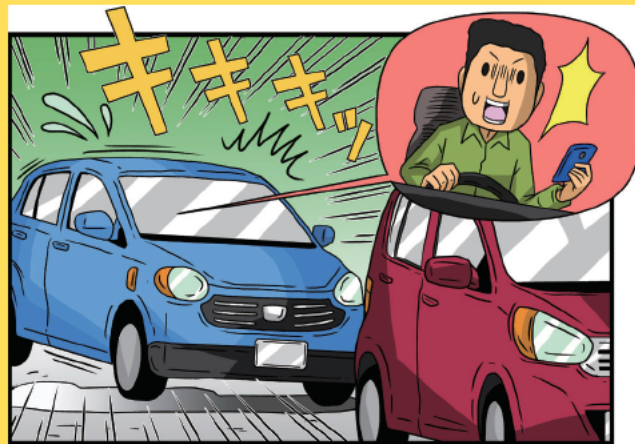


Q₁

平成 30 年中の交通事故件数を事故類型別にみると、車両相互で最も多いのは次のうちどれでしょう？

- ①追突 ②出会い頭衝突 ③右折時衝突



Q₂

(公財) 交通事故総合分析センターの分析で、衝突被害軽減ブレーキを搭載した自家用乗用車（普通・小型・軽）と未搭載車を比べると、搭載車の追突事故率は何%低くなっているでしょう？

- ①約 20% ②約 30% ③約 50%

Q₃

平成 30 年中の高速道路における道路交通法違反の取締り状況で、車間距離不保持（必要な車間距離をとっていない）で摘発された件数は次のうちどれでしょう？

- ①約 3000 件 ②約 6000 件 ③約 1 万件

【使用上の注意】

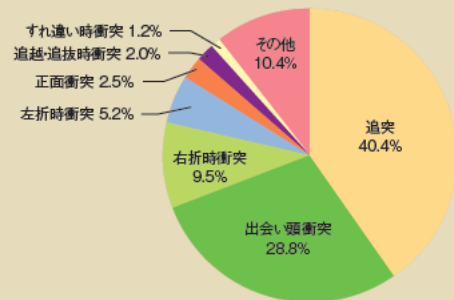
●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03 (5412) 1736

Q1 解答 ①追突

<解説>

平成30年中の車両相互の交通事故件数（37万614件）を事故類型別にみると、最も多い事故類型は「追突」の14万9561件で40.4%を占めている。追突事故を避けるためには、脇見をせずに前方をよく観ることはもちろん、前車と十分な車間距離をとっておく必要がある。適切な車間距離は走行速度に応じて変わるため、車間を時間（2秒以上が目安）でとることにより、走行速度に応じた一定の車間距離が確保できる。2秒の目安としては電柱やポールなどを目印にして、そこを前車の後部バンパーが通過してから自車が差しかかるまでに、ゆっくり「ゼロ・イチ・ゼロ・ニ」とカウントする。

●車両相互の事故類型別・交通事故件数（平成30年・構成率）



※出典：警察庁資料

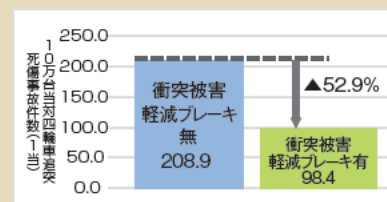
Q2 解答 ③約50%

<解説>

（公財）交通事故総合分析センターの分析では、衝突被害軽減ブレーキを搭載した自家用乗用車（普通・小型・軽）と未搭載車を比べると、登録・届出車数10万台当たりの対四輪車追突死傷事故件数（第1当事者*）は、未搭載車：208.9件、搭載車：98.4件と、搭載車は110.5件少なく、事故率は52.9%低くなった。衝突被害軽減ブレーキによる交通事故死傷者数の低減効果が現れているといえる。しかし、走行速度や走行時の周囲の環境、路面の状況等によっては、衝突を回避できない場合もある。このため、ドライバーは作動条件などを正しく理解し、決して過信せず、細心の注意を払って運転しなければならない。

*第1当事者＝事故当事者のうち最も過失の重い者。過失が同程度の場合は、被害が最も軽い者。

●衝突被害軽減ブレーキ有無別の登録・届出車数10万台当たりの対四輪車追突死傷事故件数（第1当事者）



●対四輪車追突死傷事故件数と衝突被害軽減ブレーキ有無別登録・届出車数

	1当衝突被害軽減ブレーキ無	1当衝突被害軽減ブレーキ有	計
A:対四輪車追突死傷事故件数(1当)	5,959	6,031	11,990
B:登録/届出車数	2,852,539	6,127,122	8,979,661
C:A/B×100,000 10万台当対四輪車追突死傷事故件数	208.9	98.4	133.5

※出典：（公財）交通事故総合分析センター資料

Q3 解答 ③約1万件

<解説>

平成30年中の高速道路における道路交通法違反の取締り状況で、車間距離不保持で摘発された件数は1万1793件。全違反に占める割合は1.8%と少ないが、前年からは92.1%も増加している。前車との車間距離を必要以上に詰めて走行する、あおり運転は車間距離不保持という法令違反となり、重大な交通事故につながる悪質・危険な行為なので絶対にやめてほしい。

※出典：警察庁資料

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03(5412)1736